

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成25年度 第11回理事会 議事録

日時：平成26年3月15日(土) 10:00～12:00

場所：JBAオフィス 8F会議室

出席：＜理事＞

深津泰彦会長職務代行、丸尾充、梅野哲雄の各副会長、星芳樹専務理事、伊藤信明、大神訓章、
大山妙子、熊谷秀樹、坂本昌彦、佐々木三男、品田奥義、庄司義明、高橋雅弘、田窪徹、野村俊郎、
原田茂、福井晴次、堀井幹也、水谷豊、吉田利治の各理事

＜監事＞

高原洋太郎、松岡憲四郎、山崎均の各監事

＜特任委員＞

内山英司、小倉恭志、片山正明、西井歳晴、林直樹の各特任委員

欠席：麻生太郎会長、鈴木秀太、吉田長寿の各理事、上島正光特任委員

オブザーバー：山見博康裁定委員会委員長、金井克仁弁護士／裁定委員会委員

議題

- (1) 競技規則の一部変更について
- (2) 用具・器具の認定について
- (3) 大会要項について
- (4) ネックストラップの製作について
- (5) 暴力行為等に関する裁定委員会答申について

1. 定足数の報告

堀井理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(23名)の過半数の出席数(出席:19名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

深津会長職務代行より開会の挨拶があった。

3. 議事

議長は深津会長職務代行が務めた。

(1) 競技規則の一部変更について (吉田(利)理事)

FIBAが2014年10月1日より施行する「Official Basketball Rules2014」に基づき、競技規則を一部変更することおよび国内での施行は2015年4月1日からとすることが提案され、原案通り承認された。

尚、24秒ルールに関する変更については、器具(24秒計)の仕様に変更が求められるため、現在各メーカ

一と器具の仕様変更を進めていることが補足された。

<承認>

(2) 用具・器具の認定について（堀井理事）

スポルディングジャパン株式会社より新モデル(5・6・7号球)の検定球の申請があり、検定の結果、検定基準を満たしていることから、検定球として認定することが提案され、承認された。

<承認>

(3) 大会要項について（庄司理事）

前回理事会で承認された「日本スポーツマスターズ2014埼玉大会」の大会要項の一部変更および「厚生労働大臣杯争奪 第27回日本車椅子ツイン選手権大会」の実施要項が提案され、原案通り承認された。

<承認>

(4) ネックストラップの製作について（佐々木理事）

コーチライセンスの普及および意識向上を目的とし、コーチ用のネックストラップを製作・無償配布すること、尚、2014年度からの配布となるがその一部費用を2013年度予算で実施することが提案され、承認された。

<承認>

(5) 暴力行為等に関する裁定委員会答申について（堀井理事）

東京都の高校(女子)の監督による暴力行為等について、裁定委員会における事実確認の結果、対象者を公式試合への出場資格停止1ヶ月とする答申が出された。また、福島県のミニバス(男子)のコーチによる暴力行為について、裁定委員会における事実確認の結果、対象者を譴責とする答申が出された。以上について審議の結果、2件とも答申通りの処分を科すことが承認された。

また、関連して今年度の裁定委員会で取り扱った事案の報告があった。さらに、裁定委員会からの依頼事項として、今後、都道府県協会への取組み状況の情報収集および啓蒙活動の推進を行うこと、JBA内に相談窓口の設置を検討していることが述べられた。

加えて、シャンソン化粧品の事案についても進捗状況が報告され、4月中には答申を出す予定であることが報告された。

<承認>

4. 報告事項

(1) 一般報告（堀井理事）

2014年2月の諸会議等の開催実績が報告された。

(2) 総務部（堀井理事）

スペシャルオリンピックス日本より「2014年第6回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・福岡」の後援名義申請があり、後援名義使用許可基準に基づき名義使用の許可を行ったこと、今年度のチー

ム加盟数は34, 284(前年比+130)、競技者登録数は619, 823(前年比+6, 039)となったこと、2015年の日本スポーツマスターズ石川大会の最終日と和歌山国体の競技初日が重複する日程となったことが報告された。

(3) 国際部 (星専務理事)

1月のFIBA訪問の際、FIBAのほうから東京オリンピックに向けて日本の強化に協力することの申し出があり、それに当たってはまずは実態をつかむ必要があるとのことから、アドバイザーとしてオーストラリアからグラハム・ニール・グリドン氏が派遣され、3月6日～3月末まで日本に滞在し、実態調査を行っていることが報告された。

(4) プロリーグ設立準備室 (星専務理事)

前回理事会にて承認された答申に基づき、午後からの評議員会でも同じ説明を行うこと、また、評議員会終了後には記者会見を実施することが報告された。

また、答申については、2016年シーズンから新たにプロリーグを立ち上げることとその骨格ならびに方向性を示すものであり、詳細については今後設置する検討会議にて協議を行っていくことが改めて確認された。

(5) 3x3推進室 (堀井理事)

第2回FIBA 3x3 男子世界選手権大会の大会概要および強化活動方針が報告された。尚、日本代表候補選手およびスタッフについては、会長・副会長・専務理事にも説明の上、3月中に3x3推進委員会にて選定することとなった。

また、3月3日には来年度の3x3. EXE全体構想発表の記者会見を行ったことが報告された。

(6) 競技会委員会 (庄司理事)

第13回全日本デフ選手権大会の組合せ、第46回全日本実業団選手権大会の大会結果が報告された。また、「JX-ENEOSウインターカップ2013」、「オールジャパン2014」の決算については、両大会とも入場者数が見込み以上となったこと、支出においてもできるだけ削減を図ったことで黒字となったこと報告された。

(7) 審判委員会 (吉田(利)理事)

3月21日～22日に行われるFIBA ASIAレフェリークリニックに2名の審判員を派遣する予定であること、8月に開催されるFIBAワールドカップ(男子)では、審判員として平原勇次氏が、コミッショナーとして橋本信雄氏がFIBAから指名を受けたことが報告された。

(8) テクニカル委員会 (佐々木理事)

エンデバーグループ関連では、各カテゴリーのブロックエンデバーやU-18トップエンデバーの実施状況、コーチコミッティーグループ関連では、3月1日～5日にJBA公認B級コーチの講習会を実施し、61名が受講したことが報告された。

また、ジュニアエリートアカデミーは今年度の年6回の全ての予定を終了したことが報告された。

(9) 国体委員会 (野村理事)

日体協からのユニフォームに関する調査に対する回答内容が報告された。

また、3月13日に開催された日体協の国体委員会において、茨城国体(2019年)から少年種別のU-16が導入されることが決定したことが報告された。

(10) 会長候補者の選任について (堀井理事)

会長候補者選定委員会が開催され、次期会長候補者として深津泰彦現副会長兼会長職務代行が選定され、臨時評議員会に提案される予定であることが報告された。

以上